



犬山ロータリークラブ

INUYAMA R.C.



国際ロータリー2019～2020年度テーマ

Rotary 第2760地区
犬山ロータリークラブ

■会長：山根 雄司
■幹事：加藤 浩一
■会報委員長：大島 匡博

事務所／〒484-0061 犬山市大字前原字橋爪山 1-4 犬山カンツリー倶楽部内
電話／0568-61-5219 F A X／0568-61-5523
U RL／http://www.inuyama-rc.org/ e-mail／info@inuyama-rc.org
例会場／〒484-0061 犬山市大字前原字橋爪山 1-4 犬山カンツリー倶楽部
電話／0568-61-2281 毎週火曜日／12：30～13：30

第2808回 例会 (R1. 12. 10 火 晴れ※)

点 鐘 山根 雄司会長
R . S 我等の生業 四つのテスト
ビジター ☆奥村 光義 様
☆鈴木 敏之 様

幹事報告 加藤 浩一幹事

1) 下記クラブは例会変更です

ク ラ ブ 名	例会日 (曜)	場所 (変更理由)
名古屋城北	12月17日(火)	(年末家族会(夜間))
岩 倉	12月17日(火) →12月5日(木)	(年末家族会(夜間))
瀬 戸 北	12月17日(火) →12月21日(土)	(クリスマス家族会)
豊 田 東	12月18日(水)	(クリスマス家族夜間例会)
名古屋守山	12月18日(水)	(夜間例会 忘年家族会)
各 務 原	12月18日(水) →3日間に分けて	(サンタクロス交流事業) ※7月より受付時間が変更になっている為注意
各務原かみみの	12月18日(水)	(クリスマス家族例会) ※2月より受付場所が変更になっている為注意
名古屋大須	12月19日(木)	(家族忘年会(夜間))
可 児	12月19日(木)	(クリスマス例会(夜間))
江 南	12月19日(木) →12月15日(日)	(年忘れ家族会)
名古屋丸の内	12月19日(木) →12月21日(土)	(クリスマス家族会(夜間))
春 日 井	12月20日(金)	(クリスマス例会)
尾 張 旭	12月20日(金) →12月21日(土)	(年忘れ家族会(夜間))
美 濃 加 茂	12月20日(金) →12月21日(土)	(家族クリスマス例会(夜間))

出席報告 (岩間信夫委員)

出席率 80.39%

会員 55 名 出席 41 名 欠席 14 名

欠席者 藤井友喜君 稲垣圭次君 松平實胤君
中村大輔君 野村憲治君 小田漢己君
鈴木一成君 塚原義成君 山田直廣君
山本幸夫君

前例会の修正(12/3 分)

稲垣圭次君(12/3 シートベルトチャイルドシート関所)塚原義成君
(11/21 一宮 RC)

以上 88.24%を 92.16%に修正

前々例会の修正(11/26 分)

山本幸夫君(12/3eCLUBONE)野村憲治君(12/5 江南 RC)

以上 96.00%を 100%に修正

祝 福 (保浦博志委員長)

会員誕生日	平林 米司君	12月16日
皆出席1年	兒玉 寿君	12月11日
皆出席1年	大島 匡博君	12月11日



☆☆ 皆出席 おめでとうございます! ☆☆



☆☆ お誕生日 おめでとうございます! ☆☆

ニコボックス (伊藤和幸委員)

山根雄司君 奥村さん、鈴木さん、体験例会楽しんで
いって下さい。

丹羽さん、卓話 笑いを期待しています!
(同文にて) 松山基邦君 加藤浩一君 近藤俊也君
福富孝弘君 サンバーの鈴木社長と奥村警備保障の奥村
社長さんの体験例会を喜んで! 心より入
会をお待ちしております。

(同文にて) 近藤俊也君
丹羽敬昇君 今日ではよろしくお願ひします。
兒玉 寿君 皆出席1年を喜んで!
大島匡博君 皆出席1年を喜んで!
安達英昭君 丹羽敬昇さんの卓話を拝聴できることを
喜んで! 楽しみにしています!

(同文にて) 埴田惣一君 原正男君 日比野万喜男君
保浦博志君 板津英基君 伊藤和幸君
岩間信夫君 河田敏和君 近藤斉宏君
間森清二君 真野健二君 野倉達雄君
小川宏嗣君 小川誠君 小川征一君
岡田雅隆君 奥村正幸君 大澤渡君
朱宮新治君 祖父江寿男君 住野龍之介君
高橋秀治君 田中進一郎君 谷定貴之君
安田一生君 安田新平君 谷津義雄君
吉田洋君

[illegible]

皆さんこんにちは。

本日のお客様を紹介致します。本日のお客様は、総合警備保障の奥村光義様と、理容業の鈴木敏之様です。ごゆっくり例会を楽しんでいただきたいと思います。

大雪に入りましたが、今週は穏やかな天気恵まれて過ごしやすい一週間になりそうです。

今の話題は、ノーベル化学賞を受賞されました吉野彰さんとアフガニスタンで命を落とされました中村哲さんです。お二人とも戦後早々にお生まれになり、一つの信念をもって研究に打ち込んだり、究極の医療とは、と探求されていたり、非常に尊敬するお二人でございます。

特に、中村医師は1985年頃からパキスタン北部のペシャワールで医療奉仕活動をはじめハンセン病の患者を診ておられたそうですが、パキスタンの政治情勢の変化からアフガニスタンに移ってからは本格的な診療所を開設して地域の人々のあらゆる病気を見ておられたそうです。

アフガニスタンでは、子供 6 人に 1 人が 5 歳以下で死亡していましたがその最大の原因が感染症による慢性化した下痢であったことを確認し、「医療よりもまずは水」だと確信しアフガニスタンで井戸を掘り始めたそうです。すると赤痢などの感染症が激減してきたそうです。

井戸堀や地下水路の修復を積極的に推進していったそうです。しかし、2000 年頃からアフガニスタンは大干ばつに襲われ、地下水も枯渇し始めたそうです。

そこであきらめるのではなく、用水路の建設を立案しそれを実行に移し、クナール川からガンベリ砂漠に総延長 24 キロ用水路を建設し砂漠から緑豊かな大地となり干ばつ難民は故郷に戻り、再び農業をするようになったそうです。

中村医師は、アフガニスタンの人は「家族と一緒に暮らして、食べていける。まず、それさえ保証されれば満足してくれる。紛争もおさまる。」中村医師はそのために尽力してきました。また、「平和に武器はいらない」とも、言っておられます。

中村医師の人生の金言

- 1, 一番の支援は豊富な水と、緑豊かな日本の自然
(日本国に対して)
- 2, 先進国で学んだからと言って自分の国がよくなる
とは限らない

その国には、その国のやり方があるんだ

現場主義でやってこられた人ならではの言葉だと思います。

以上で挨拶といたします。

会員卓話 岩間信夫プログラム・出席委員

☆丹羽 敬昇 君



ただ今紹介していただきました、丹羽敬昇と書いて「ユキノリ」と呼びます。どうぞよろしくお願いいたします。

今日は卓話ということで、何を話そうかと考えましたが、僕には何の取り得もなくゴルフの話か仕事の話かを考えましたが、とても皆さんにお話しできるようなことは一切していませんので、今考えたのは、僕は14年前に膀胱がんをやりまして、その摘出手術をして約5か月だったかな、入院しましたので、その時の話をしたいと思います。

膀胱がんになった年は、ちょうど 43 歳の年になった時で、その時の最初の症状がですね、おしっこをした時に一番最後に赤い血尿が出ました。それが一番最初の症状でした。これはおかしいということで町医者に行行って調べたんですが、特に何も見当たらないということではかっておきました。それが丁度今くらいの時期にありまして、仕事が忙しくなって年度末もあって、3 月くらいからちょっと尿をした時に痛みがあって、残尿感が出始めて、頻尿になって、もちろん血尿もあって、これはおかしいということで病院にまた行って検査をしました。その時に膀胱鏡という検査をしたのですが、やったことがありますかね、みなさん？膀胱鏡というのは、おちんちんの先からカメラを入れて膀胱の中を見るんですね。その検査というのが、ちょうど両脚を開けて、ちょっと恥ずかしい格好ですね。ふりチンの状態でそれをやって、ちょっと最初にゼリーを入れるんですね。潤滑剤のようなものを入れて、5 分から 10 分くらいその状態で放置されるわけです。もちろん顔はカーテンで閉められて隠れているのですが、

下半身は向こう側に出てるわけですね。そこを看護婦さんたちがあっち行ったりこっち行ったりして、何かやっとなんてですね。その気配を感じるんですね。何かすごい恥ずかしい思いをした記憶がございます。その膀胱鏡で検査した結果、膀胱の中に 2.5mm くらいの腫瘍が見つかりました。それが、ちょうどカメラで写ってるのを横のモニターで見させていただいたのですが、見るからに悪性であったと記憶しております。何かカビが生えてるような蜘蛛の巣が張っているような腫瘍でした。

これはいかんということで手術になるのですが、最初の手術がその腫瘍を削り取る手術。これは簡単な手術で、ちんちんの先からメスがついたカメラのようなやつで削っていくという手術をやりましたが、結果として数値があまりよくないということで、最終的には膀胱摘出手術というものをやりました。

膀胱をとっちゃうものですから、おしっこを貯めとくところがなくなるんですね。その代わりに代用膀胱と言いまして、腸を切って腸を膀胱代わりにするという手術をしました。腸が固いとできないということで、僕は結構体が硬いもので腸もカチカチで、先生曰く、やれるかどうかわからないということで、もしできなかった場合として、へその横にマジックで印をつけられました。これは医学用語でいうとストーマというのですか。人工膀胱、ここに袋を作ると言われました。手術しないと結果がどうなるかわからないと言われて手術室に入りました。結果としましては、代用膀胱でできたので、今、見た目は全然普通の体です。

手術の時間は朝の 9 時に病室を出て夜の 10 時まで、13 時間かかりました。結構長い時間でした。もちろん麻酔を受けたので手術室に入ってあっという間に麻酔が効いて目覚めたのが 13 時間後でした。その間、13 時間というと、手術している先生たちはご飯とかトイレとかどうしてたんだろうと考えたのですが、おなかを開けたままほかれとったのかなという気もしました、今でもわかりません。

麻酔から目が覚めた時は遠くに丹羽さんという小さい声が聞こえて、だんだんその声が大きくなってパッと目が覚めて初めて気が付くんですね。鼻口腕腹そこから中から管が出てまして、痛みと寒さ、手術室はすごい冷やしてあって、体が完全に冷え切ってガタガタ震えとった記憶がございます。

まあ一応手術が成功したものですから、人口膀胱もつけずに、何とかこういう体で今いるんですけど、手術後の経過があまり良くなって入院がすごく長引いたんですね。だいたい 4 カ月から 5 カ月くらい入院しました。その入院の話はですね、まず病院食が食べられなくなりました。1 ヶ月くらいしてからですかね。匂いを嗅ぐだけでも駄目になって、毎日嫁さんにおにぎりを朝 2 つ作ってきてもらって、お昼と夜おにぎり一つずつ食べとった記憶がございます。

あとですね、体を毎日若い看護婦さんが拭きに来てくれるんですが、まだその頃 43 で恥ずかしさの方が先に出来てですね、洗い方も体全体を拭くんですが、局部に関してはマヨネーズの入れ物みたいなやつにお

湯が入っていて、そのお湯をかけて洗うんですね。で、先つちょをつままれてチャチャチャと洗うんで結構恥ずかしくて、山根さんもこの間やられたとのことですが、結構恥ずかしい思いをしながら過ごした記憶がございます。

4 カ月、5 カ月入院しますと精神的にもおかしくなりましてね、点滴も 24 時間ずっとつけっぱなしで、その他に採血だ何だでいつも針でブスブスブス刺されると、大した痛みではないんですが毎日になるとすごいストレスになるわけですね。そのストレスがあって、担当の先生と結構言い合いをして、看護婦さんの一番偉い人が走ってきてまあまあと。その後に精神科の先生が見えて薬を処方しますと、うつ病になっていたかもしれません。そんな記憶もがございます。長い期間中の入院でしたから、体重も毎日測るのですが、毎日どんどん痩せて、体重が最初 63 キロくらいあったのですが、最後の方は 55 キロを切っていました。筋肉もどんどん衰えて、脚でも腕くらいの細さになりました。腕も全然力が入らなくて、ペットボトルが開けれないんですね。それで、看護婦さんに頼むとか、嫁さんに頼むとかして水を飲んどった記憶がございます。

抗がん剤治療もしたんですが、最初は動脈に入れる薬でやったのですが一気に熱が 38 度くらいまであがったので、これは駄目だということで腕から入れる薬に代えました。この抗がん剤治療は薬が体に回り始めると、口の中が薬の味になってすごい気持ち悪くなるし、息が苦しくなるし、口の中に副作用なのかぶつぶつができてすごい痛いんですね。そういうことがありました。後、髪の毛がよく抜け落ちるというんですが、僕の場合は抜け落ちるんじゃないしに切れ落ちました。焼けたようになりました。痛んでそこから落ちちゃうと、そういう感じでした。髪の毛も残しておいてもしょうがないということで、病院に来て美容師の方に坊主にしてくれということで髪の毛も切りましたし、そんなことをやりながら、抗がん剤は 3 クールやりました。

それが効いて数値も落ち着いたということで退院という話しになったのですが、退院の前に三半がおかしくなっちゃってしましまして、すごい眩暈がするんですね。寝てばっかりいたのでそうなったのかもしれないのですが、起き上がろうと思うと天井がぐるぐるぐるぐる回る。先生にそれを言うとまた退院が伸びると思って、黙っていました。とにかく家に帰りたいという気持ちしかなかったものですから。ただ、退院しても眩暈は治りませんでした。半年くらい眩暈で苦しみました。それも何とか治りました。ただ退院後は月一で膀胱鏡の検査がありました。これがまた痛いんですね。僕の場合は、尿管をくっつけとるもんですから、余計それで肉が中に入って、そこに入ってく時に当たるので余計痛くて、終わった後は焼けるような痛みが尿をしようと思うとあるんですね。座ってやっても痛い、立ってやっても痛い、傷口に塩を塗るようなそんな痛みがあります。それを月 1 回 1 年くらいは続けましたね。僕は先生にこれは無理なので、とにかく膀胱鏡はやめてくれと言って、今はやってません。また、おかしく

なったらやりましょうということをお願いしてあります。

入院する前にうちの父親も、その1年くらい前に胃がんとわれ余命半年くらいと言われてました。僕が退院して半年もしないうちに今度は父親ががんで亡くなるということもありました。長男の学校の担任の先生も僕と同じ病気で同じ手術をしておりました。その担任の先生は息子の就職の相談の際に僕にも会いたいということでわざわざ家に来てくれて、その先生はその時にお尻の骨の辺りが痛いので今から病院に行ってくると言っておりました。そうしたら癌が転移していて、そのまま入院されて半年もたたないうちに亡くなってしまったのですが、そういうことを考えると、僕は今転移もないし、元気に生きとるしありがたいと思っております。

今、仕事はですね、僕がいなくなっても良いように従業員に任せるようにしております。そうすれば、従業員に責任感も出てきますし、僕が僕がという風に昔は思っていたのですが、任せるということも大切だなという風に思っております。

最後になりますが、病気になって死というものを意識することができて、これから先をどう生きようかと考えるようになりました。一日一日を悔いの無いように大切に生きる、やりたいことをやって毎日を一生懸命生きるように今はしています。今年で手術をしてから14年経ちますが、数年前のホールインワンコンペの時は血便しましたが、あとから分かったのですが、実は大腸がんでした。今年は2回緊急で病院に行っています。だんだん歳をとって、体も言うことを聞かませんのでそういうことも多くなるとは思います、気を付けて生きていたいと思います。一番の病気の原因はストレスだと思いますが、この卓話がストレスでした。

以上です、ありがとうございました。



ご 報 告

☆犬山成田山 第56回成田山学童席上揮毫大会

(青少年奉仕委員会担当)

犬山成田山より、第56回成田山学童席上揮毫大会協力のお礼状と実施報告書、入賞者名簿をいただきました。犬山ロータリークラブ賞に選ばれた方々は下記の皆さんです。おめでとうございます♪

扶桑中学校 3年	浅井 元規さん
味噌小学校 6年	加藤りのあさん
古知野南小学校 4年	中村 紗季さん
古知野南小学校 3年	山口 夏穂さん
小野小学校 1年	岡島 聡悟さん

